

第8回 市民と議会のつどい（産業・人権環境常任委員会の部）

会議録

日 時 令和6年5月19日（日）午前10時開会

場 所 宇治市役所議会棟第3委員会室

主 催 宇治市議会

1. 開会

■西川 友康 広報委員会委員長（以下「司会」）

皆様、おはようございます。

本日はお忙しい中、第8回市民と議会のつどいにご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、宇治市議会広報委員会委員長の西川友康です。

本日は平成24年から行っております市民と議会のつどいでございますが、今回で8回目の開催となります。新型コロナウイルスの影響で開催を見送ったこともございますが、宇治市の未来について語り合う場を議員全員で相談・模索いたしまして、今回は対面方式で4つの常任委員会ごとにテーマを設けて実施することにいたしました。

委員会からの推薦によりご参加いただきます皆様にこの場をお借りいたしまして感謝申し上げますとともに、開催案内をご覧になり申し込んでいただきました皆様にも心よりお礼を申し上げます。

今回のつどいでは、ご参加の皆様と宇治市の未来について、多くのご意見をお伺いする機会として有意義なつどいになればと思っております。運営上、何かと不行き届きな点もあるかと思いますが、何とぞスムーズな進行にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、開催に当たり、各常任委員長をはじめ委員の皆様におかれましては、テーマの選定や開催方式など各委員会で検討・調整いただき、ありがとうございました。

それでは、開会に当たり、宇治市議会副議長関谷智子をご挨拶申し上げます。

2. 副議長挨拶

■関谷 智子 副議長

皆様、おはようございます。

本日は、第8回市民と議会のつどいにご参加をいただきましてありがとうございます。

開催に際しまして、議会を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、平素より宇治市議会の活動に格段のご高配、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、宇治市議会では、市民の意向を的確に反映をし、市民に開かれた信頼される議会を築くために、そしてまた市民福祉の向上及び市政の発展に貢献するため、宇治市議会基本条例を平成23年に制定いたしております。その条例の趣旨にのっとり宇治市議会の活動を知っていただきまして、議員が皆様と意見の交換をさせていただく場としてこの市民と議会のつどいを開催させていただいております。

今回のつどいは、4常任委員会ごとにテーマに基づきまして意見交換をするという手法にいたしました。市民の皆様からいただきましたご意見を基に、宇治市議会では、今後も宇治市の明るい未来を築くべく議論を重ねてまいりたいと思っている所存でございます。

本日は、短い時間ではございますが、実り多い意見交換の場となりますことを祈念いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

■司会

ここからの進行は、産業・人権環境常任委員会の中村委員長にお願いいたします。中村委員長、よろしくお願いいたします。

3. 意見交換

■中村 麻伊子 産業・人権環境常任委員会委員長（以下「進行」）

皆様、改めましておはようございます。ご紹介をいただきました産業・人権環境常任委員会委員長の中村麻伊子でございます。

本日、私どもの委員会では、どうやって宇治でゼロカーボンシティを実現するのかをテーマに皆様と意見交換をしてみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、座らせていただいて進めさせていただきます。

宇治市においては、本日、概要版をご参加の皆様にお配りをしておりますとおり、今年の3月に宇治市第3次環境保全計画が策定されました。本計画では、持続可能な脱炭素社会の実現に向け総合的な環境施策に取り組む必要があることから、地球温暖化対策地域推進計画を統合し、地域気候変動適応計画の内容を盛り込んだものとなっております。ゼロ

カーボン達成するために、社会システムや都市・地域構造を脱炭素型に変えていく必要があり、そのためには行政、市民、事業者がそれぞれの課題に取り組み、環境、社会、経済が調和した未来を目指さなければなりません。

そこで、今回はそれぞれのお立場からゼロカーボンシティ実現のためのご提案やお考えをお聞きし、今後の施策充実に取り組んでいきたいと考えております。そのため、本日お越しいただきました方からも後ほどお話をいただきたいと存じますが、ご意見を頂戴する場であることをあらかじめご理解をいただきますことを重ねてお願いしておきたいと思っております。

それでは、まず初めに、産業・人権環境常任委員会の委員のご紹介をいたしますので、各委員さんからは自己紹介をお願いいたします。（紹介）

どうぞよろしく願いいたします。

次に、地球温暖化の深刻な状況について角谷副委員長にご説明をいただき、認識を一にした上で、本日、推薦者としてお越しいただきました皆様からご意見等を述べていただき、その後、お申込みいただいた方でご発言を希望されています方に挙手していただき、順番にお話を述べていただこうと考えております。最後に、皆様からのご意見を受けまして、各委員から意見を述べたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、スケジュールの都合から、皆様の意見交換のお時間を制限させていただくこともございます。大変限られた時間ではございますが、進行上の都合もございますので、何とぞご理解いただきますようよろしく願いいたします。

それでは、角谷副委員長、よろしく願いいたします。

■角谷 陽平 産業・人権環境常任委員会副委員長

それでは、よろしく願いいたします。

ご説明させていただきますのは、宇治市の環境保全審議会の専門部会にも加わっていただきました京都府地球温暖化防止活動推進センターの先生がおつくりになられた資料をちょっと活用させていただきまして、私どもの委員会としても、ほかの市議会の議員の方もお招きをして研修を、この先生のほうから地球温暖化ということに関して受けさせていただいたこともございます。ちょっと時間がございませんので、かなり早回しになりますのでご了承ください。

なお、こちらの内容については、先生におつくりいただいて、我々も勉強させていただ

いた内容ですので、この内容については、私、質問を受けましても、ちょっとそこまでの専門知識はございませんので、よろしくお願いいたします。

それでは、2023年の気温については過去最高を更新したのではないかと、国連事務総長も、地球が沸騰する時代が到来したと警告をされているということでございました。

I P C C ですね、今まで可能性が非常に高いと、人間の活動がですね。C O ₂ の排出が温暖化をもたらしている可能性が高いという表現だったのが、6次報告書については、人間の活動が地球温暖化を引き起こしてきたことは疑う余地がないと、ここまで断言をされているという状況でございます。どれぐらいこれまで気温が上がったのかということ、これから上がるのかと。気温は既に1850年から1900年の基準で1.1度上昇していると。2100年までには4度、場合によって6度近く上昇する可能性があるということでございます。ただ、一方で、様々な取り組みを進めていく上で、1.5度程度に抑えて安定させられる可能性もあるということでございました。

じゃ、どれぐらいの対策が必要なのかということなんですけれども、気温の上昇というのは、今までの排出された累積の二酸化炭素の排出量に比例をするということでございました。ですので、二酸化炭素の排出量を実質的にゼロにしなければ、地球の温暖化というの止められないということでございます。どれぐらいまだ排出できるのかということなんですけれども、極めて少ないと。今の現状でいくと、現在の排出量がもう一切増えないで、今までの排出量を続けていっても、あと10年分ぐらいしかないということでございました。

特に今回、高校、中学校の学生さんたちもお越しいただいたのは、世代間の不公平があると。言わば生まれによって温暖化した地球上で生きていく期間が全然違うわけでございます。うちの娘も高校2年生と小学校6年生ですけれども、言わば温暖化した地球を生きていく期間が長いわけでございます。ただ、排出していたのはその前の世代ということでございますので。

カーボンニュートラルと。本日、ゼロカーボンシティをどうやって実現するのかということなんですけれども、カーボンニュートラルのイメージ図でございます。どうしても出てしまう分については吸収をすると、再エネの部分を増やしていかないといけないということです。世界的に見ても、かなりカーボンニュートラルの動きというものが進んでいるということでございます。国だけではなくて大企業といったところも、アップルについてはサプライチェーン、製造の過程全てで脱炭素をするということを工場等にも求めているということでございました。

特に日本の場合というのは、再エネの確保というのが非常に重要な地域課題となっております。かつて、オイルショックの反省から石炭火力等を大分増やしたというところもあったんですけども、原子力発電についても議論はありますけれども、再エネの確保というのが非常に地域課題になっているというところでございます。

以上でございます。我々議員としても様々意見ありますけれども、宇治市をどうやってゼロカーボンシティを実現していくのかというときの認識の前提というところは、こういったところございました。かなり駆け足でございましたので、申し訳ございません。

以上です。

■進行

角谷副委員長、ありがとうございます。今の説明からも、この温暖化対策というのは、どの国、あるいはどの地域においても喫緊の課題であるということは、皆様にもお分かりいただいたのではないかなと思います。

では、続いて、推薦者の方々からご意見をいただきたいと思います。

まず初めに、推薦者①様、よろしくお願いいたします。

■推薦者①（宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議）

よろしくお願いいたします。

このタイトルのイラストなんですけれども、すみません、先ほど説明ありました宇治市第3次環境保全計画のイラストを勝手に借用させていただきました。お許してください。ここで堅苦しく発表すると、後の高校生、中学生がドキドキすると思うので、リラックスして発表させていただきますので、よろしくお願いいたします。

我々団体のまず説明をさせていただきます。

我々、先ほど言いましたように宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップというのが正式名称です。こちらのほうは事業者、市民、行政の3者が協働して温暖化防止に取り組む団体で、平成21年、2009年3月8日に設立されました。この団体名を長たらしく言うのが難しいので、e c o ット宇治という愛称で今活動させていただいています。

こちら先ほど説明あったんですけども、ゼロカーボンシティというのは、二酸化炭素をプラス・マイナス・ゼロの状態にしていこうということです。我々がこれを聞いても、何か難しいなと、横文字ばかりやなというのが、ちょっと私もどうかなと思うところで

す。

宇治市のほうでもこれを宣言されたんですけれども、ほか日本でどんだけこのゼロカーボンシティを宣言されているかというところ、この日本地図、ちょっと抜粋したような感じなんですけれども、この緑の丸印が宣言をしているところで、もうたくさんこのゼロカーボンシティを宣言されている行政があります。こちら書いているように東京都、京都市、横浜市をはじめとする1,078自治体、46都道府県というので、これ日本、47あるんですけれども、何かどこか1個宣言してないなというところがあるんですけれども、関東のある一部のところは色ついてないところがあります。あと、市としても603、特別区ですと22、町で言うと352、村で言うと55が、2050年までに二酸化炭素排出が実質ゼロを表明しております。こちらは環境省の3月29日時点のデータになります。ですので、もう今、ちょっと進んでいるので、また増えている可能性もあります。先ほど紹介ありましたように、宇治市のほうでもこちらのほうが作成されて、目指していこうということになりました。

我々、15年ほど前から温暖化防止の活動をさせていただいています。正直言ってまだまだ皆さんには知られてない団体ですけれども、ごく一部の人が知っている団体ということで、どういうことをしているかというのを説明させていただきます。

まず、左（ディスプレイ表示資料）から、家庭の省エネ相談所、こちらのほうは宇治市のほうで毎月15日前後に市役所のロビーのほうで開催させていただいてまして、家庭でどういった省エネをできるかアドバイス等をさせていただいています。皆さんが日頃使っておられる電気代とか、車を使っておられるならガソリン代、あとガス代、そちらのほうをお聞きして、こういったことをしたら省エネ——省エネ、イコール、温暖化防止につながるので、そういったことをアドバイスさせていただく相談会を毎月させていただいたり、最近ではアル・プラザ宇治東さんのほうでも定期的で開催させていただいております。

真ん中（ディスプレイ表示資料）は緑のカーテン講習会。こちらのほうは、おうちのほうの窓際のほうで特にゴーヤを育てていただいて、それによって家の中に入ってくる日光とかを遮って、家の中のクーラーの温度とか、そちらのほうを、クーラーあまりつけずにいけるようなことで、こちら市役所のほうでも議会棟のほうの前でゴーヤのほうを育てさせていただいています。

右端（ディスプレイ表示資料）が宇治環境フェスタ、年1回、宇治市のほうで大きな環境のイベントのほうをさせていただいています。

続きまして、あとは左（ディスプレイ表示資料）から、広報誌、温暖化についての情報誌を年4回ほど発行させていただいております。これは市の公共施設など、あとは我々 e c o ット宇治のメンバーのほうが、町内とか、そういったところで配布させていただいています。

真ん中（ディスプレイ表示資料）は、何年か前からさせていただいています水車の発電実験、再生可能エネルギーということで水車のほうに着目していろいろ実験させてもらったんですけども、今、ちょっとこの水車を常設して発電するのは難しいということで、いろんな方法を探っております。

右端（ディスプレイ表示資料）が、これは燃料電池で発電してみようということで、子供相手に工作教室をさせてもらって、子供たちに再生可能エネルギーの勉強をさせてもらっているところの写真になります。

続きまして、どんぐりプロジェクトといいますのは、ドングリを育ててもらって、それを木にして、その木を植樹して、その木が二酸化炭素を吸収して、少しでも温暖化防止に貢献してもらおうということでこういった活動をしております。

あと、真ん中（ディスプレイ表示資料）のシイタケ栽培体験というのは、こちらは先ほどのどんぐりプロジェクトと似たような感じで、森林に関心を持っていただくということでこういった体験会もやっております。

あと、右端（ディスプレイ表示資料）は、小学校で出前教室などをさせていただいて、自然とか温暖化防止、環境教育などを子供たちに伝えさせていただいております。

続きまして、左端（ディスプレイ表示資料）のソーラーカーづくり教室、こちらは宇治市のほうで、毎年、夏休みわくわくこどもフェアとか、あとはまなびんぐのほうなどで出店させていただいて、これも再生可能エネルギーを子供たちに理解してもらうのにソーラーカーをつくってもらって体験させていただいております。

真ん中（ディスプレイ表示資料）は、すみません、先ほど説明させていただいた議会棟の緑のカーテンの栽培のほうをさせていただいております。今年も植えさせてもらったところで、これから育っていくのを皆さん楽しみに見ておいてください。

右端（ディスプレイ表示資料）がおもちゃの交換会、かえっこバザールというタイトルでさせていただいております。子供たちが使わなくなったおもちゃを誰かほかの子供たちに使ってもらうということで、捨てるのではなく、再利用していただく交換会のほうも定期的にさせていただいております。

左端（ディスプレイ表示資料）はLED電球交換会、普通の白熱灯などを使っておられる方を対象に、LED電球のほうが省エネにつながりますので、交換会のほうを何回か開催させていただきました。

真ん中（ディスプレイ表示資料）の旬当てゲームというのは、今の子供たちは旬というのをあまり知らない。旬のものを食べたり購入したりすると、それも二酸化炭素排出防止につながるので、それを理解してもらうのにこういったゲームをつくって子供たちに体験していただいています。

ecottクッキング教室というのは、エコクッキングのことです。エコクッキングというのは、どこかの団体が登録されているので、あまりエコクッキングという言葉は使ったら駄目なので、このような名前にさせていただいています。エコクッキングの教室を定期的にさせてもらっていきまして、最近は防災と絡めた料理教室のほうをさせていただいています。

左端（ディスプレイ表示資料）のecottカフェというのは、定期的にいろんなことを題材にして市民の方に講座を聞いていただいて、あとは意見交換会みたいなそういう場を設けさせていただいています。最近させてもらっているのは、窓を断熱窓にすると、それも省エネになるということで、最近は断熱窓のことを中心にecottカフェのほうを開かせていただいています。

これら今まで説明させてもらったのは、協働している市からこれをやってくださいというのではなくて、主に市民、あと事業者の方で、どういったことをしたら市民に伝えられるんだろうということで、会員同士で活動内容を考えていろんなイベントをさせていただいています。我々の団体は固まった団体ではなくて、新しくこういう温暖化防止の活動をしたいという団体、活動したい方がおられたら一緒にしていきましょうというスタンスの団体になっております。

ちょっと駆け足になりましたけれども、以上が我々の活動している内容で、宇治市のゼロカーボンシティに近づけるように頑張っている活動をこれからもしていきたいと思っております。

以上になります。ありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。1つずつの取り組みを重ねることによって、ゼロカーボンシティに近づいていくというご提案だったなと思っております。

続きまして、推薦者②様、よろしくお願ひいたします。

■推薦者②（電気機械器具小売事業者）

よろしくお願ひいたします。

まちの電器屋さんの考え方から、今日はゼロカーボンシティについてちょっとお話をさせていただきます。

ご存じのとおり、我々は一般家庭向けの太陽光発電の取扱いをさせていただいている会社であります。本来は、まちのエアコン、冷蔵庫、洗濯機とかの家電製品を扱っているんですけども、リフォームとかも含めて電力に関しての提案で太陽光の販売をしてきました。

太陽光の普及としましては、2011年の東日本大震災のあたりがピークでありました。やはりあのとき計画停電とかがありまして、市民の方々の電力に対する意識が非常に高くなりまして、一般の家庭でも設置される方々が増えています。ただ、2013年、14年ぐらいから、余剰電力といひまして、発電した電気、余った分は電力会社が買い取ってくれるシステムがあるんですけども、その余剰電力の買取り価格が年々下がってきたことによつて、一般市民の方々からの太陽光に関する関心が非常に薄れていきまして、2011年、12年頃は弊社のほうでも年間で約30セットぐらいの販売をしていたんですけども、2015年あたりからは本当に年間で3セットを切るような、逆に販売できて設置すると珍しいなというような感覚に陥つたように記憶しております。

最近の流れとしましては、それ以降、そのように既存住宅に設置されるお客様、市民の方は減つたんですけども、新築住宅に関しましては、それでも設置される方々はある一定数おられました。それは、国のほうの施策としてZEH住宅、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスに関して補助金が出るということで、新築のタイミングで太陽光をつける、また、先ほど推薦者①さんからもありましたけれども二重窓にするとか、ある一定の基準をクリアすると補助金が出るということで、新築に関しては太陽光の設置は相変わらず今現在も多くあると聞いております。

そんな中で、我々は、2022年、一昨年なんですけれども、京都府が推進されております京都府0円ソーラー販売事業というのがあるんですけども、初期費用ゼロ円で太陽光を一般の市民の方も設置できるというような取り組みを京都府がされています。宇治市内の事業所では弊社が唯一のその事業者登録になっていまして、結構、市政だよりとか府

民だよりに記載されていたりとか、ホームページに上がっていたりということで、一定数の問合せに関しては非常にあります。多いときでは月で15件から20件ぐらいの対応をしましてご相談をさせていただいています。ただ、京都府のされているもので、実際設置に至るまではなかなか件数としては上がっていないんですけれども、やはり一定数の関心があるのは、その問合せ件数から見てもあるのかなと思っております。実際、この一、二年でそういう京都府の取り組みもされているので、いつか本当に全然設置がなかったんですけれども、ここ数年ちょっとずつ増えてきて、年間5、6セット販売しているような状況です。ただ、これはやっぱり、なかなか我々の会社も発信力が弱いので、大手の訪問販売会社さんであったりとか全国規模でされているところは、一定数設置されているのではないかなとも認識しております。

あと、最近増えてきているのが電気自動車の充電スポットです。これは車のディーラーさんでも自宅に設置できるんですけれども、一部聞いた話は、ディーラーさんで設置するとコンセントが高いということを知っていて、地元の電器屋さんにご相談される方がございまして、自宅のほうのブレーカーから駐車場に充電スポットを設置する工事は増えています。これが大体1か月で3件程度あるので、年間ですと40、そこまではないかもしれないんですけれども、ある一定数は増えてきているように認識しております。ただ、電気自動車の普及に関しましては、やはり走行距離があまり伸びてないので、遠方に出かけることを対象とする方には普及しにくい。ただ、地域、地元で走る車なんかに関しては、これからも増えてくるのではないかなと思っております。最近では宇治市の郵便局の車とかバイクも、本当に電気自動車、電気バイクが増えているなというのは実感しているところです。

あと、今後、宇治でどのようにゼロカーボンシティをつくるかという部分に関しましては、やはり個人の一般住宅と法人の企業さんと両方を考えていかないと普及しないのではないかなと思っています。

まず、個人の一般家庭に関しましては、やはり先ほどありました発信するという意味では、宇治市の市政だよりであったりとか、我々企業の努力も必要かと思うんですけれども、やはり太陽光はいいものだよと。特に最近、災害、地震などで停電するというニュースもたくさん見えていますので、そのあたりで太陽光と蓄電池を設置することで、避難所に行かなくても自宅で電気で生活することができるという発信であったりとか、そういうことが必要かなと思っています。

あと、法人のほうの設置する仕事も結構我々多いんですけども、やはり企業さんのほうで利益が上がったときとかに設置されるパターンがあったりとか、やはりSDGsということがキーワードになっていますので、会社として設置されている方々もたくさんおられます。そのあたりで税制対策とか、また宇治市と企業が連携することによって、災害の避難スポット、充電スポットとして、その企業が設置されている太陽光を市民の方に自由に使えるようにという施策なんかをしていただけたら、企業がもっと前向きに太陽光を設置していくのではないかなと私は考えております。

あとは、太陽光、今後設置すると10年、20年使用していく商品ですので、やはり安心できる企業の推進を、私は京都府の電機商業組合、また工事組合というところに加盟しているんですけども、そのあたりが中心となって、首都圏とかから業者さんが来て、設置後、5年後にその会社がなくなっているとかではなくて、地元でしっかりとしている基盤がある会社が設置して、後々のメンテナンスも見ていけるような安心できる市、まちにできたらいいなと思っております。

今後も、市民の方々からの太陽、その0円ソーラーを通じて還元しながら、ゼロカーボンシティの実現に貢献していきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございます。

■進行

ありがとうございました。

今日は概要版をお配りさせていただいているんですけども、大きい計画の中には0円ソーラーのことの紹介もございましたし、先ほどZEH住宅だったり、太陽光の補助金の話もありましたけれども、そういった行政の後押しもこのゼロカーボンシティ実現には重要なかなとお聞きして思ったところであります。ありがとうございました。

続きまして、推薦者③様、お願いいたします。

■推薦者③（マルシェ主催者）

よろしく申し上げます。マルシェを開催している団体——団体じゃないですね、僕と妻2人で勝手にやっているだけなんですけれども、もし、この中にも来てくださった方がいらっしゃったらありがたいんですけども、地球と体と心に優しいというコンセプトでやっていて、食べ物で言ったら農薬を使っていないとか、無農薬、農薬不使用、あとは無添

加、あとは国産とか、発酵とか、体にいいとされるものを取り扱っている、もしくはこだわっている出店者さんたちが集まってくれている、そういうマーケットで、あとは環境に優しいので、例えば量り売りとか、マイカトラリーを持ってきてくださいとか、エコバッグを持ってきてくださいという取り組みを、来場者の皆様にもご協力をいただいて、みなでゴミをなくそうというか、無駄なゴミをなくす。そこらじゅうにあるマルシェ、マーケット何でもありとは違って、少し環境のこと、体のこと、誰か大切な人のことを考えたマーケットができたらなと思って僕たちは主催をしています。

基本的に、僕たちは宇治市民なので、宇治市のそういうすてきをたくさん紹介できたらなと思って、宇治市のそういう取り組みをされている方とか、ワークショップで言うと廃材というか、木を使われる工務店さんで、その出た廃材を使って子供向けのワークショップをされたりとか、海で流れ着いたシーグラスみたいなやつをアクセサリにしたりとか、そういう方々をお招きしてやっていて、基本的に宇治で僕たちがやっていきたいという思いでやっています。

僕たち、じゃ、何しに来たんやというところなんですけれども、ゼロカーボンシティをどう目指していくかというところで少しお話をさせていただきたいと思います。

僕たちの出店者さんたちは物にこだわりを持っている出店者さんが多いので、石油由来のものに頼らず、植物系のほうになるべく頼ろうねとか、なるべくゴミを出さないようにしようねとか、持って帰るゴミにしても自然に返るゴミにしようねとか、その選択肢を増やしているような出店者さんたちが多くなっています。あとは、僕たちマルシェなので、どうしてもお客さんによっては食べ物のフードロスが出てしまうんですけれども、それも出店者さんの中で買物をするアフターマーケットという時間を設けたりして、フードロスがなるべく出ないようにしていると、そういう取り組みを続けています。

じゃ、僕たちのイベントに来る方々のメリットは何かというと、農薬とか無農薬が何がいかというのをここで語るのはちょっと長くなるのでやめるんですけれども、基本的に僕たちは健康被害というか、見た目はむちゃくちゃきれいやけど農薬まみれの食材と、虫はもちろん来るかもしれない、おいしいから。土もいいし。でも農薬を使っていない不ぞろいの野菜、どっちがいいかと。子供たちに聞くと、見た目がいい野菜がいいと、農薬まみれでもいいからと。農薬の被害なんか子供ら分からないですよ。それは後に出てくるし、大人の僕たちがそれを子供たちに教えていく必要があるなと思って、だから今、僕は、宇治市と宇治市教育委員会のほうに後援を取って、そういう子供たちに学びを与える場を

このマーケットで設定しています。なので、来る子供たちにも、来る大人の人たちにもそういう選択肢を知ってもらって、あとは出店者さんとお話をしてもらって、マーケットが広がっていけばいいなと思っています。あとは生産者さんの、言うたらファーマーズマーケットに近い形なので、農家さんが直接物を売っているの、割とそういう顔が見える安心・安全な食を提供できるかなと思っています。

だから、僕たちがやりたいのは健幸なまちづくり。健幸というのは、健やかな健康のほうと、幸、幸せのほう、健幸。体が健幸だからゼロカーボンにつながっていくんじゃないかなと思っています。どうつながるか。温室効果ガスどうこうみたいなやつは、多分、僕よりすばらしい、知ってらっしゃる方がいると思うのでその話はしないんですけども、生産しないなんて多分無理だと思います。ゼロカーボンというか、何もしないというのは無理やと思うので、僕は減らすほう、もしくはそれを運用するほうに持っていけたらいいんじゃないかなと思っています。自然の光合成と、今は人工の光合成というのが多分あって、どっちが効率いいかなんていうのはちょっと長いスパンでしか見れないと思うので、僕たちはそんなのできないし、バイオマス燃料とか僕たちは多分提供できないので、マーケットを通して安心・安全な食品・食材を提供して健康な体でいただくというのが、一番まずはいいいんじゃないかなというところと、ごみを出さないとか環境に配慮された取り組み、意識して過ごしていくというのを僕たちはやりたいんですけども、じゃ、ちょっとマーケット広域化を見直そうかと、どのように今後やっていったら宇治市のためになったり、宇治市民の人たちが、ゼロカーボンシティがそもそもいいと知らないという人たちのほうが多分多いし、でも僕、図書館へ行ったら、宇治市の、結構本はあるんですよ。子供向けのものも。でも多分、子供たち知らないだろうな。二酸化炭素が、地球温暖化がと、多分取り組みではやるけれども、なかなか知らないだろう。おうちでも話が出ないと思うので、僕たちのマーケットでいうと、今、300人から500人ぐらいのお客さんが来てくださるので、そこでおはなし会の設定をしたりとか、子供向けのワークショップでもそういう環境に向けた取り組みを続けていきたいなと思っています。

あとは、これ皆さんご存じかもしれないんですけども、エコビレッジという今取り組みをされている、村づくりをされている方が地域にいらっしゃって、そのエコビレッジをつくる方をエコビレッジのビルダーと言うんですけども、そのエコビレッジって何かというと、その村、そのまちで、言うたら全てが完結する、生産から雇用、消費が自分たちのまちで全て行われるというのがエコビレッジで、家づくりも、畑づくりも、ごみ処理も

全て自分たちのまちでできるというのがエコビレッジなんですけれども、そういうのを僕たちもやりたいな、学びたいなと思っているので、宇治市のためにそういうのがもしできたらいいなと思います。

じゃ、子供たちの体をどう守るかというのと、おうちの人、保護者しか守れないんですけども、給食とか、その辺をもしアプローチできたらいいなというので、オーガニック給食って結構ニーズがあるというか、はやっているんですけども、オーガニックが正義では僕はないと思っています。オーガニックってすごい定義が実は広いので、本当に体にいいものとか、僕はだから、どちらかという宇治市の地産地消のほうを進めたほうがいいなと思っています。そうすると、燃料の消費がやっぱりすごくゼロカーボンに向けての取り組みとしては大事だと思うので、遠くから輸送してくるよりは、なるべく宇治でローカルなものを回していくほうが僕はいいかなと思います。

その2つと、あともう一個、ちょうどさっきあったんですが、エコ・アクション・ポイントというのを宇治市も結構頑張ってるんですけども、僕、全然知らなくて、この間、茶づなでのマルシェを僕開催したときは、このエコ・アクション・ポイントと一緒に、企業さんと一緒にやらせてもらったんですけども、ふだんから集めている方もいらっしやって、そのポイントがお金に変換できて、うちのマーケットで使っていただくという取り組みをしました。こういう実現可能な取り組みを、もっと身近にエコを感じながら皆さんでやっていただけたらと思うので、エコ・アクション・ポイントの普及もそうだし、環境、エコの取り組みも、e c o ットさんの活動とかも含めて、僕たちと一緒にやっていけたらいいなと思います。

1個、最後、実現可能なモデルで、僕がちょいちょい遊びに行っているというレベルなんですけれども、知っている方もいるかもしれないんですけども、徳島県の上勝町にゼロ・ウェイストということに取り組んでいるまちがあって、ゼロ・ウェイストセンターというのがあって、はてなのマークのセンターがあって、そこはごみ収集車がないまちです。ごみ収集車なくて、唯一のごみ収集センターがそのゼロ・ウェイストセンターというんですけども、そこは自分たちがごみを持ち込んで分別を自分たちでやると。そこにプロも職員も別に基本的にはいないと。リサイクル率が80%を超えていると。町内にごみ収集車がないから町民がこの施設を運営していると。これ、ごみの分別が13種類、45分別。だから本当に捨てないかんもの以外は、ほぼ使い回せると、そういうゼロ・ウェイストに取り組んでいる。これはある意味小さいまちだからできると僕は思うんですけども、

宇治市にも何か反映できるものが、還元できるものがあるんじゃないかなと思って今回提案させてもらいました。

だから、結構、家の中に要らないけれどもまだ使えるものってたくさんあると思うんですよ。でも、それを売ろうとか、誰かに譲ろうと考えるとすごいのは狭くなるんですけども、この場合はそういうステーションがあって、そこに置いていって、自由に置いていいし、自由に持って帰っていいという、その辺も含めてすごく僕はいい取り組みだなと思いました。なので、宇治市のために僕もできることがあれば、マーケット通してやっていきたいので、また皆さんのお話を聞きながら、今後のマーケットの発展と、宇治市のゼロカーボンシティに向けての取り組みを続けていきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

■進行

推薦者③さん、ありがとうございました。健幸な健やかな幸せのまちづくりと、とてもいいキーワードをいただいたなと思いますし、地産地消も大変大事だと思いますので、ご提案ありがとうございました。

続いては、先ほど角谷副委員長からも、世代の公平性ということで、高校生の皆さんと中学生の皆さんとお越しをいただきましたので、若い学生さんのご意見もお聞きをしたいというふう思います。

よろしく願いいたします。

■推薦者④（高校生）

私たちは、実際に地域の人とフラワーロスを解決する、サブタイトルとしてキャンドルで人と人とのつながりづくりという活動を行っています。

まず、動機としては、花、いわゆる植物というのは、もともと自然の状態だと、光合成とか単体で見ると少ないですが、大きな量で見るとたくさんの温室効果ガスを吸収するという特徴を持っていると思うんです。でも、それが人工的に切り取られてしまったりとか、使われた後でもそのまま絶対に捨てられてしまう運命というか未来がある中で、それが廃棄されるということは、そのままカーボン、CO₂が排出されるということにつながってくると思うんです。だから、もともと吸収される、ゼロカーボンを緩和させる、CO₂を緩和させる立場

にあるのに、それが逆に排出する立場に変わってしまうというところが、このフラワーロスという問題のとても大きな点だと考えています。そして、花が使われずにそのまま廃棄されるというのはとてももったいないなということを感じたので、この活動をスタートさせることにしました。

ただいま申し上げたように、気になる現状としてはフラワーロスが多いということなのですが、実際にフラワーロスって何なのかというと、すみません、ちょっと見にくいんですけども、出荷から配送時とか売られるときに廃棄されるもの、そのまま使われることなく廃棄されるものも含めるし、実際にお店に並んだとしても買われることなくそのまま捨てられてしまったりとか、出荷基準に満たなかったものがそのまま捨てられてしまうということになります。

花は生活のあらゆるところで使われていますが、コロナ禍の影響によってイベントの縮小とか中止ということで、花を頼まれたにもかかわらずそのまま捨ててしまったりとか、そういうコロナ禍の影響で結構フラワーロスというのが皆さんとか人々の目に留まるようになったのではないかと考えられます。もともと法人が28%を占めていたのですが、コロナ禍を踏まえてゼロに近くなってしまって、現在では個人で消費するしかないという状況にもなっています。需要バランスの崩壊が起きてしまって、花業界は難しい状態、厳しい状態になっているという現状があります。実際に数字で言うと約1,500億円もの経済損失が起きており、国内で廃棄されている花は生産量の30から40%と言われております。年間で10億本を超える花が廃棄されており、これはフードロスの約3倍とも言われています。

そこで、私たちがつくりたい未来は、捨てられる花がない社会、そしてサブタイトルでも申し上げたように人と人とがつながれる社会をつくるということです。このような未来を目指して、昨年度からSDGsというような、世界でも注目されている問題、考え方なんですけれども、その科目の授業があって、そこの活動から、引き続き本年度、3年になってから探究授業というのがあるんですけれども、その時間にこの活動、リフラワーという名前で活動を行っています。

■推薦者⑤（高校生）

次に、リフラワーのこれまでの活動についてお話ししていきたいと思います。

まず、フラワーロスを解決するために私たちに何ができるかを考えました。試行錯誤し

た結果、私たちは廃棄される花を使ってキャンドルをつくろう、そして人々に届けるギフトに変換させることに決めました。そうすることで人に使ってもらうことができ、廃棄される花を減らすことができると考えました。

そう考えた私たちは、リフラワーというグループとして、主にキャンドルづくりと販売、ワークショップという2つの活動を行いました。

キャンドルづくりと販売では、この活動をスタートさせた当初は、私たちは廃棄される花を持っていませんでした。そこで、地元宇治市の商店街にある生花店にご協力していただくことになりました。生花店のご協力の下、廃棄される花を定価の半額で譲っていただくことになり、私たちは廃棄される花を手にすることができました。それ以外のキャンドルに必要な材料は、学校の支援金で購入したり、メンバーの自宅から集めたりしました。メンバーの自宅でキャンドルを作成し、完成したキャンドルを地元宇治市の商店街にあるギフトショップにご協力していただき販売させていただくことになりました。それと同時に地域の方々にフラワーロスについてお話しさせていただいたり、私たちの活動についてもお話しさせていただきました。また、私たちリフラワーの活動や、その活動に協力してくださった商店街の方々を宣伝すべくポスターを作成し、学校にて掲示して、多くの生徒の目にとどまるように設置させていただきました。

また、先ほども紹介させてもらったように、ギフトショップでワークショップを開かせていただきました。これを開いた目的は、より多くの人に廃棄される花が美しく生まれ変わる瞬間を体験してもらいたいと思ったからです。私たちは、来てくださった方々一人一人に世界に1つだけのキャンドルづくりをしていただきました。キャンドルのつくり方は、綿棒ケースを用意して、綿棒ケースの中にキャンドルの芯を入れます。キャンドルの芯を入れて、その隙間に生花店で頂いた廃棄される花を詰めます。そして、その間からろうを流し込んで、約1時間ほど自然乾燥させます。そうするとキャンドルは完成します。このキャンドルづくりに使った綿棒ケースやキャンドルの芯なども全て頂いた材料なので環境にとっても優しいと言えます。

また、ワークショップだけでなく、家でも一人一人が廃棄される花を使ってキャンドルづくりができるようにつくり方の説明書を配布しました。この説明書には必要な材料や手順、実際につくったときの写真などが細かく記載されているので、誰でも簡単にキャンドルをつくることができます。それ以外に、キャンドルをあまり使わないといった方や、キャンドル以外にも試してみたいという方に向けて、廃棄される花やドライフルーツを使っ

たエコな石けんのつくり方も載せています。こうして廃棄される花の存在や、それが美しく生まれ変わる姿を積極的に伝えられるのがワークショップのよさだと感じました。

実際に今回ワークショップに参加していただいた方々からは、キャンドルが気になっていたので今回つくることができてよかったとか、廃棄される花をこんなすてきなキャンドルによみがえらせるなんてすごいですね、高校生の皆さんの取り組みということでとても興味を持った、参加できてうれしかったという様々なうれしいお言葉をいただいて、このようなワークショップなどを開催できてとてもよかったなと感じております。

■推薦者④（高校生）

続いて、今後についてお話ししたいと思います。

先日の4月14日に開かれたマルシェに参加してワークショップを開かせていただきました。人と人とのつながりづくりをスローガンに、地域活性活動団体とつながりを持たせていただいて参加することができました。今後、第2回を開催されるということなので、そこに参加させていただく予定です。また、先ほども紹介させていただいたように、ギフトショップで引き続きフラワーキャンドルの販売やワークショップを行うことにさせていただいています。

また、今まで以上に活動の場を大きく広げるために、宇治市未来キャンパスなどの交流型イベントに参加して活動の場を広げて、いろんな方との情報交流ができればいいなと考えております。

最後にメッセージといたしましては、もっとフラワーロスについて知っていただきたいなということです。そもそも、フラワーロスというのは何か知らないという人がとても多いと思うので、それを知っていただくために私たちも活動しているんですが、それを自主的にやっついていかないと、やっぱりそんなに興味を持ってないとか、絶対スルーしてしまうことだと思うので、それを意識していきたいなというのと、あとはやっぱり、私たち以外にもフラワーロスに関する活動を行っている方々もいるので、その方々とも交流する機会があればと思っております。

そして、もっとアクションということで、私たち以外にも、やっぱり高校生という立場にしては、イベントに参加する機会というのは結構多く用意されているというか、用意していただいているんですが、やっぱり自主的に参加するという回数が少なくてまだまだ広まっていないなということがあるので、イベント参加することによって、ほかの方とのつ

ながりをつくることもできたり、意見を聞いたり、新たな視点を手に入れるということもできると思うので、イベント参加するということがこのアクションにとって一番重要なことだと考えています。

この議会での発表を通じて、もっと活動を広げていきたい、いけばいいなと考えております。聞いてくださった皆さん、よろしく申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。お花が吸収するのに排出する側になるのはもったいないという視点で、私も今までそんなことを考えたことがなかったので、すばらしい着眼点だなと思いました。ありがとうございました。

続いて、推薦者⑥、⑦さん、よろしくお願ひいたします。

■推薦者⑥（中学生）

今日はお時間をいただきありがとうございます。よろしくお願ひします。

私たちは、中学1年生のときに行った学校のグローバルチャレンジプログラムという海外でのスタディーツアーに参加したことからスタートしました。そのスタディーツアーは、バリ島ウブドにあるマナ・アースリ・パラダイスというエコホテルに宿泊して、循環型施設を体感し、いろいろな体験学習をするというものでした。エネルギーはソーラー発電、施設で使う水は雨水をろ過したもの、排水も、ろ過して再利用します。施設も木を新たに一本も切らずにアースバック工法で建てられるなど、地球に優しいホテルです。

スタディーツアーの中で、グリーンスクールという世界一サステナブルだと言われている学校に見学に行き、その卒業生がバイバイ・プラスチックバッグ運動を行い、バリ島のプラスチック袋を大幅に削減したと学びました。その運動をしたのが10歳と12歳のときで、私たちとほとんど変わらない年齢で、ただ目の前のことを追いかけていたらそうになっていたと聞いて、子供でもできることがあるんだと学びました。小さなことでもまず一歩を踏み出すことが大事なんだと思いました。

■推薦者⑦（中学生）

そこで、何か私たちでもできることはないかと考え、勉強すると生まれる使用済み文房

具の回収を学校内で取り組むことにしました。右の写真（ディスプレイ表示資料）のように教員室前に回収ボックスを設置し、回収を呼びかけました。私たちの所属する中学校だけでなく、高校のコースの先輩方に集ってもらい、リサイクルの協力依頼のプレゼンをしたり、文化祭で保護者の方が来られる際に、中学、高校の保護者の方、全員にリサイクル活動に協力してもらえるようお願いの連絡をしたりして、学校の中で知ってもらえるように活動してきました。継続的に告知をすることで、今までに約10キロの使用済み文房具をリサイクル業者さんへ送ることができました。

リサイクル業者さんへ送った後は、右の写真（ディスプレイ表示資料）のように解体し、異物を取り除き、分別します。そして細くして比重分離を行い、アップサイクルしたりペレット化して同じペンへ水平リサイクルもしています。私たちが参加しているのはパイロットという会社のプログラムで、全国的に行われているものです。全体としては2024年3月には323キロ、今までに合計4,519キロを回収している大きな輪のものです。学校内の回収ボックスに入れることで、ごみとして廃棄され焼却されるはずだったものがリサイクルされるので、少しでもゼロカーボンに貢献できると考えています。また、学校という身近な場所に回収ボックスがあることで、今までに興味なかった人も協力してもらいやすく、少しでも興味を持ってもらうきっかけになったらいいなと思って活動しています。

そのほかにも、学校のノベルティーについても変更してもらえるようにプレゼンをしました。その結果、海ごみのホットスポットと呼ばれる長崎県の対馬に漂着する海洋プラスチックごみをリサイクルしてつくられたボールペンに変更してもらうことができました。

一人でも多くの人に、限りある資源の有効活用の一步を踏み出してもらえたらいいなと思って、これからもコツコツと活動していきたいと思っています。聞いていただきありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。小さなことをまず一步ということで、大変、私もこうやって文房具がリサイクルされていることを知りませんでしたので、今日はどうもありがとうございました。

それでは引き続き、今日ご来場いただいています方のご意見を賜りたいと思いますが、先に、会場には参加はできないけれどもということでご意見を賜っておりますので、ご紹介

介をしたいと思います。

第3次環境保全計画、ごみの削減と有料ごみ袋制の検討について、5年前、前市長が断念したごみ袋有料化がなぜ出てきたのか。古着リユース、油の回収など、毎年60から70トン、拠点回収で年10トンと、ごみの排出量は減少傾向にありますね。市民の協力でごみ減少してきたと思う。ごみ行政の中で目標と現在の状況、あとは何をどれだけ減量すれば予算の中でごみ行政が実施できるのか説明しなければ有料化には賛成できない。ごみ行政は自治体の根幹業務で、ごみ減量のための有料化には根拠がないのだというご意見をいただいております。ありがとうございました。

それでは、本日、事前にお申込みいただきました中で、ご意見をおっしゃりたいという方は挙手にてお願いできたらと思いますが、いかがでしょうか。では、どうぞ。マイクを持ってまいりますので。

■ 発言者①

ありがとうございます。先ほどの中学生、高校生の方々の取り組みが素晴らしいなと思いました。

宇治市のほうで、今、太陽光発電とかを結構進められていると思うんですけども、やっぱり太陽光発電自体をつくるのに二酸化炭素も使われ、また持ってくる輸送費で使われ、それプラス、今後、太陽光発電が20年後、30年後に壊れたときにそれをどうするのかとも考えておられるのかなというのがまず1つと、あと、先ほど推薦者③の方が言われておりましたエコビレッジ、そちらのほうも私もすごく気になっておりまして、何人か見に行った者もおりますけれども、やはりそういったごみのリサイクルの取り組みであったりとか、あと、私、宇治の炭山の間伐作業とかも行っているんですけども、山の木の間伐して太陽を当てることによって、下の草が伸びて二酸化炭素を吸収するという事も考えられます。なのに山の斜面に太陽光を造ってしまうと、太陽が当たらず、草も生えず、そこに雨が降ることによって土砂崩れが起こるという事も実際起こっております。そういったことはどのようにお考えであるのかということと、あと、高知県のほうに梶原という村があります。そちらのほうは木質バイオマスで、ほぼほぼその地域が、80%ぐらいが全部そこでリサイクルされ、エネルギーもそこで消費されているようなところもあります。そういったところであったりとか、あと、先ほどのボールペンのリサイクルなんかもそうですけれども、スウェーデンなんかは99%、全てごみをリサイクルにしております。

す。そういったことも、もっと取り組みに力を入れていただいて、太陽光発電に力を注ぐのは、ちょっと私、やめてほしいと思っております。

以上です。

■進行

ありがとうございます。

次にご質問ございますか。せっかくお越しいただいておりますので。どうぞ。

■発言者②

私も太陽パネルに関してですけれども、テレビのブラウン管のリサイクル会社で太陽パネルのリサイクルの件でいろいろと勉強させてもらっていたことがありまして、人間に有害な物質があるということをそこで結構学ばせてもらったりとか、そういうので太陽パネル自身にちょっと疑問を感じたこともありまして、そんな折に、たくさん山に設置して、熱海でしたかね、土砂崩れして何人か亡くなられたりとか、あと、宇治田原町ではもうそこらじゅう太陽パネルばかりで山肌が見えていて、それでも大きい災害が起きたときどうなるやろうというものもあって、逆にそれが環境破壊につながるのではないかと思っていました。

あと、今回参加されて発表された方にはほんまに共感することがいっぱい、いろいろと参考にさせてもらっています。やっぱりこういう機会があつて、そういう皆さんの意見があつて、若い世代から会社経営されている方までの意見はとても貴重で、こういう機会はほんまに大切だったなと思って拝見しておりました。ありがとうございます。

■進行

ありがとうございました。

ほかにご意見ございませんでしょうか。どうぞ。

■発言者③

すみません、今日、こういう会があるということで突然参加させてもらって。というのは、いろんな今お話聞いていて、とてもすばらしいことをやっておられる中学生とか高校生のお話もあったんですけども、私は全く、本当に無農薬とか、そういうことは本当に

自分でも心がけて毎日の食生活をやっております。本当に食べることにこだわって、食べ物にこだわって生活したいと思っているので、いろんな今日のご意見の中で共感するところが大変多かったんですけども、実際は自分の毎日の生活の中で、もう年ですけども、ごみの問題ですね。ごみで一番ようけ出るのが、もう本当、生ごみがやっぱりすごいですよ。私、独り暮らしなんですけれども大変多いです。それとビニール系、プラスチックじゃなくて、ごみ袋ですね、ビニールの袋、そういうものが買物したらいっぱいあるので非常に多いということで、毎日、自分たちの町内のごみのことも見ていると、やっぱりすごい多いですね。だからできるだけ、さっきも言われていたように量りで売るとか、そういうお店があったらいいのになとか、そういうことも思っていました。

私が一番、ちょっと今日は出て聞きたかったことは、家で生ごみ。私ができることは生ごみをまずは減らすことと、それからそれを、例えば乾かして、ほかさないで、もったいないですから、それを肥料にしていきたいなというのを、つい最近です、前から一応思っているんですけどもなかなか実践できてなくて、やっぱりやらないかなと思いたったんですが。土をつくるというか、いっぱい栄養のある土を生ごみでつくるのも大切かなと思って、ひょっとそういう、前に私、宇治市の補助を受けて、そういう生ごみを入れる容器を購入したことがあるんです。ところが、ちょっといろんな事情がありまして、なかなかごみが土に返らないという、時間かけてもなかなかできないという経験もあって、電気をつけて回していくんですけどもね。ところが、最近また、そういうカタログを見ていたら、とても新しいやり方で、1日の間で生ごみがすっかり乾いて、それを砕いて肥料にできるというどんどん新しい機械ができているのを初めて知りまして、それが、購入しようかなと思ったら、よその市町村、宇治市ではなくて、その購入する先に、ちゃんと市町村によっては補助が出ますと、このように書いてあるんです。前は宇治市も補助が出たので、ちょっと宇治市のほうにお聞きしたら、もうそういうことはすっかりやっていませんという返事やったんです。その辺が、やっぱり生ごみというのは大変多いですし、各家庭がそれを出さないような努力をしていけば、宇治市のごみ問題も少しは減るんじゃないかなとも思いますので、またその辺の補助とかということもよろしくお願ひしたいと、そういう要望を持って今日は参加させてもらいました。

ありがとうございました。

■進行

ありがとうございます。

ほかにご意見等ございませんか。後ろの方。

■発言者④

1つお願いですが、今日いろいろお話ししていただいてすごく参考になりました、ただ、できたら事前に分かっていたら、ペーパーで資料等があればありがたいというのと、画面が、そのディスプレイね、ここから見えへんのですよ。何ぼ頑張っても。できたらもう一台、この前に設置をしてもらえたらまだましかなというのが、一定、ちょっとお願いです。

二酸化炭素を減らすのにマイカーをどれだけ規制をするかと、減らすかということについて、やっぱり宇治市として考えていかんなんことが大事やなと思っているんです。私は西小倉におりまして、バスも何も走っていません。唯一、近鉄の小倉駅があるだけというところなんです、そういったところも含めて宇治市内の公共交通がかなり不便なんですね。

宇治市は便利なところやと言っていますが、この間、私たちが、宇治市内で住んでいる人が50人ほど、いろんなところから学習センターに自力で集まろうということで、電車やバス、歩くということも含めてやりました。そしたらやっぱり1時間から1時間半かかります。ほんまに不便なんですね。マイカーで仮に行ったら、10分か20分で行ける場所なんですね。そういったことを公共交通でやっぱりカバーしていくことを考えていかんとマイカーは減らへんと思うんですね。これはやっぱり宇治市も考えてほしいし、議会のほうでも考えていってほしいと思います。他都市ですけれども、最近、自動運転のバスなんかも走り出しているの、電気の自動運転のバスとかを購入して走らせるということも考えてもいいのではないかと思います。

もう一つ、食材の関係ね、ほんまに大事なことやと思うんですけれども、これから学校給食のほうで、私は賛成ではないんですが、センターで大量に何千人分の学校給食をつくって配送するというのが今進められているようなんですが、この食材がほんまに先ほど言われた地産地消になるのかね。これだけの大量のものをやろうと思うと、地元ではおそらく無理やと思うんですね。そしたらどこから来るか分からへん、何が入っているか分からへん、こういうことのチェックがちゃんとできるのかということも非常に心配をしています。そういったことも議会のほうで検討できるような体制を取ってほしいと思います。よ

ろしくお願いします。

■進行

ありがとうございます。

限りある時間ですので、質問のある方、手を挙げていただいて。最後、お一人でよろしいですかね。あとお二人。じゃ、この2人で終わらせていただきたいと思います。

■発言者⑤

今日の議題ですね、私のところに物すごく関係あるもので、私、自動車屋さんをさせてもうているんですけども、寄せてもうて皆さんのお話聞かしてもうて、いろんな発表をされて、あ、そこまで、細かいことまでやっておられるなということをお聞きしまして、自分も気持ちを変えなあかんと思うて、敬意を表します。ありがとうございます。

せやけど、まず人間の気持ちを変えへんかったらあかんと思うんですよ。全てね。ほんで、太陽光の説明もしてくれはりましたけれども、売れへんとか売れるの話で世間の考え方もちょっと読めてきますし、ほんで世の中があんまり便利になり過ぎて、快適に皆さん慣れてきているんですよ。せやからそれを、気持ちを変えようと思うのはかなり難しいと思うんですよ。せやから、私も、今、改めて、私、もう78ですけども、考え方が古いから、そういう考え方をあかんと思うているんですよ。

ほんで、皆さん、カーボンって、私、言うたら電池の芯とか、鉛筆の芯や思ったんですけども、カーボンて何や知ってはりますか。地球温暖化の。カーボン言うたら、私ちょっと調べてきましたんやけれども、地球を暖かく保つ働きを持つ気体の総称というらしいですよ。せやから、それは今お話ししてはった全部に匹敵するもので、ひとつちょっと全然関係ない話やけれども、ごみ焼却場ありますやろう、うちの。その熱で発電機を回して自分とこで電力を補っているんですよ。ちょっとこれは余計なことやけれども、ちょっと今、ふと思い出して言わせてもらいました。ほんで、ほか、メタンガスとかも地域温暖化にちょっと影響するんですけども、CO₂というたら、COとCO₂、COは有毒ですね、窒息するから。ほんでCO₂というたら原子が、まあちょっと専門的な話しやめときますわ。いうことでね。

せやから、人間の考え方をやっぱり変えへんかったら、あんまり皆さん、便利になり過ぎて、スマートフォンでも便利やろ。ねえ。そんなことを見て何でもやるから人間あほに

なってくるんですよ。計算機、カシオ計算機がつくってから、みんなそろばんを使わなくなって、あほになってきたんですよ。今、暗算で計算できたの、もう計算機なかったらできませんやろう。皆さんスマートフォンの計算機でびゅっとやらはるんちゃうの。暗算でできるか。紙に書いて、プラスマイナスやって、イコール出すか。出せへんやろう。違うか。せやから、そういうのに慣れてきてしもうとるから、まず人間の気持ちを変えへんかったら、これどうにもならんこと。

ほんで、イギリスの産業革命から100年ぐらい、地球100年でほんまにめちゃくちゃにしてしもうたんよ。せやから、この100年間で何十億かけたものを、人間がみんなめちゃめちゃにしてしもうたんよ。そういうこともちょっと意識しいへんかったら、皆さん言うてはることは物すごい今大事なこと、ほんでいろんな取り組みやってはんの、それは学生さんやから学生さんらしい取り組みで、これはほんまによかった。

せやから、私のところも商売柄、リサイクル用品は物すごく利用しているんですよ。ほんで、私自身はごみも物すごく細かく選別しているんですよ。ペットボトルでも、上へばっとめくってね、これプラマークやったらプラマークの袋に入れて、ペットボトルは足で踏んで小さく潰して、ほんで袋に詰めて出すように、ごみの選別はほんまに、あほかいな思うぐらい自分でも細かくやって、それでまたやらへんかったら習慣になってきて気色悪いんですよ。

せやから、そういう具合に自分の考え方を変えていかへんかったら、皆さんやっていはることは物すごいすばらしいこと。それをどう伝えていくかも難しい話やね。それを議員さんに知ってもらうて、それを行政さんのほうに、まず、ああしてくれ、こうしてくれと言うよりも、行政さんも万能ではないから。予算もあることやし。せやから費用対効果も考えて、そういうことも行政さんも、チラシでこんなんしてください、あんなんしてください言うてお知らせしてもらおうのも一つの仕事や思うんですよ。せやから、年寄りの言うことやから堪忍してな。

■進行

ありがとうございました。

お隣の方にマイクをお願いします。

■発言者⑥

私は72歳になりますけれども、高度成長のいい恩恵を受けて、ぜいたくな生活を皆しているように思っています。それで、この今までのやり方がこんな今の状況をつくったわけですから、この経済成長をもう一回見直すということが、そこで答えが出るんだと思います。

例えば、コンビニが日本全国に7万店ぐらいあります。自動販売機が200万台あります。特に自動販売機なんて1日中、電気を使っているんですよ。こんな国ってアメリカの次に日本が一番多いらしいんですけども、こういうことに電気を非常に使っている。極端に言ったら自動販売機なくてもコンビニがあるんだから僕はいいと思うんですけども、これなんかも見直しをね、これは国の問題ですけども、各自治体もやっていったらいいんじゃないかなと思います。最初は、自動販売機でも7時から11時まではいいけれども後は消そうとか、コンビニでは7時から11時だったんですけども年間になっていると。こんなも、もう一回コンビニは全部7時から11時までぐらいにするとかね。その間の電気は消せるわけですよ。だからそういうことは現実に可能なので、基本的には業者が自分たちのもうけということで一生懸命やっているだけのことなので、この辺の見直しを自治体とか国がやるべきじゃないかなと思います。

それから、車でも最近、シェアでやっていくというような考え方が出ていますね。こういうことで、車の量を減らすというためにはこういう考え方もあるんじゃないかなと。私なんかも、もう70になってから、もう車なくてもいいように思います。隣近所で話して、シェアして使ってもいいというような発想をこれから持ちたいなと思っていますけれども、こういうことも考えるべきかなと思います。

それからソーラーで、ソーラーパネルの電気ばかり考えていますけれども、私は20年ぐらい前にソーラーの温水器をやりました。これ非常に、お風呂なんかも沸かさなくてもいい。ガス代がもちろん減りますし、ガスの消費が全然減りますよね。これを何でもっと復活しないのかなというのを今考えます。パネルが1台か2台あったら十分、お風呂のお湯も全て賄えていますので、これなんかはもっと業界は力入れるべきじゃないかなと思います。

それから、ソーラーパネルの電気のほうは、自分とこの使える家ぐらいの電気のパネルを自分の屋根に使うと。確かにさっきおっしゃったように自然を削ってまでやるようなパネルって、これは大変おかしいと私は思いますので、個人住宅、それから公共の屋根なんかを使うと。蓄電池まで入れるとかなりお金かかりますから、そこまでなくても当日の電

気にちょっと充当すればいいというような考え方、その辺をちょっと考えるべきだなと思いますし、それから内窓、最近の住宅は密閉がいいのでこんなもの要らないと思いますけれども、私なんか家も40年以上たっていますので内窓をつけました。この前の宇治市の提案があって。非常にいいですね。静かですし、冷房の温度も夏でも28度ぐらいに設定しとるんです。もうそれで十分。気密があるから。それから冬でも21度か20度でも設定しといたらいいですね。だからお金の問題じゃなしに、それだけでも電気代が減るんじゃないかなと思いますし、あと、プラでも、もう本当に今、プラ製品って使い捨てですよ。この使い捨ての考え方を本当にみんな自身が考えるべきで、喫茶店に行って飲物が出たらストローがついてくると。もうそんなのは要りませんと、ごみになりますからというようにみんなが言えばいいと思うんですよ。自分たちが。業者にもこういうものは、簡単に捨てるようなものはもうつくらないでほしいと行政が言えば一番いいんですけども、僕たちも、使っている人間も断ると。それから弁当を買ったら箸をくれますね。あれらも使ったらすぐ、使い捨てですよ。最近、傘でも100円とか200円の使い捨て傘とかあって、便利で使い捨てという、これも全くごみですよ。こういう考え方をみんなが持つべきだなというように思います。

■進行

よろしいですか。すみません、ありがとうございました。

本日は本当に多角的なご意見を大変多くいただきまして、興味深い内容もありました。私たち委員も様々な意見がありますので、この場で委員会としての意見をまとめるということは、本日は時間に限りもございますので、まず、委員一人一人から今日の感想等を述べていただきたいと思います。

松峯委員からよろしく申し上げます。

■松峯 茂 産業・人権環境常任委員会委員

皆さん、大変ご苦勞さまでございました。推薦者の皆様もいろいろとご提案をいただきましてありがとうございました。

そしてまた、市民の皆さんからもご要望やご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。今の発言者⑤さん、78歳と言われていましたけれども、人生100年時代でございますし、私も65歳になりまして、今、中学生、高校生の皆さんが提案してくださ

ったことについても、知らんことばかりやったんで申し訳なかったですけども、今日は新たに聞かせていただいて、ええ取り組みをしていただいているなと思いました。

また、このゼロカーボンのことで皆さん意見交換していただいたわけなんですけれども、やはり今の生活をどのように保全をしながら次の若い世代につないでいくかという課題が大きな問題やと私も思っていますし、また、皆さんが住みよい宇治市のために活動を広げていただくということが大変ありがたいなと思っています。

また、太陽光発電の話もございました。うちも3年かけて太陽光設置条例というの、市民の皆さんからご提案をいただいて協議をしてやってきたこともございますし、いろいろと皆さんのほうからもご提案をいただいて、我々もできる限りのことを挑戦していきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いを申し上げたいと思います。

また、我々も、皆さんの意見をしっかりと吸収をさせていただいて、当局へ届けていくというのはもちろん当たり前のことなんですけれども、我々も我々で宇治市のあるべき姿を求めて頑張ったいと思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひ申し上げます。本日は大変ありがとうございました。

■ 進行

ありがとうございます。

では、稲吉委員。

■ 稲吉 道夫 産業・人権環境常任委員会委員

本日は本当に多岐にわたってのご提案、本当にありがとうございました。皆様、ご参加いただきありがとうございました。

私からは、本当にこの温暖化に向けての取り組みに関しては、まずは推薦者①様にご了解いただきまして参加させていただくことかなと、その取り組みにしっかりと参加して貢献していきたいなと。これがまず身近な取り組みかなと思っております。

それと、本当に私、宇治市議会もそうですが、この近くでは折居清掃工場というのが太陽が丘にございます。この組合というのがありまして、組合の中に議会というのがございます。組合議会に仕事柄関わっております、この清掃工場でもいろんな、ごみの削減であったり、分別であったり、そういったことを中へ行けば見学もできますし、そういった取り組みの中でいかに市民一人一人が貢献できるかという説明もしていただけますので、

機会がありましたらぜひとも折居清掃工場のほうに行って、申請していただければ見学できますので、よろしく願いいたします。

やっぱり私、市民相談を受ける中で、ごみの分別というのが大変たくさんいただくんです。中にはお怒りのご意見もいただきます。ごみの分別がなってないですよということが、最近もお電話いただきました。自分の身近で取り組めることは、まずそういったことかなと思っております。やっぱりごみの分別をしっかりとしながら、いかに再利用、再資源化していくか。それぞれの皆さんのお話もありました。それが一番かなと、まずは取り組みとしては一番かなと思っておりますし、最終的には推薦者③様からありましたように、大人が子供たちにどういった、大きく言えば地球を残せるのか、緑豊かな地球を残せるのか、それとも熱が上がった、温暖化による気温が上昇しているのを抑えていける地球を残せるのか、それが一番大事かなと思いますので、皆さんのこういったご意見とご提案をこれからの宇治市議会に生かしていきたいと思っておりますので、今後ともどうかこの宇治市議会を、皆様、注視していただきますように、これもよろしく願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

■ 進行

ありがとうございました。

次に、山崎委員、お願いします。

■ 山崎 匡 産業・人権環境常任委員会委員

本日はありがとうございました。たくさんご意見を出していただいてありがとうございます。

本当にたくさんご意見を出していただいたんですけども、私も議会の一般質問の中で、まちづくり全体に関わる問題として、環境問題はきちりと取り組むべきだという話はさせていただいたこともあります。先ほど出ていた移動手段、交通の問題も環境に関わる問題だし、ごみの問題もそうだし、あと事業者の方の責任を果たすということと、個人でそれぞれが考えて自分たちでも責任を果たすとか、できることをたくさんやっていくということ、それ全てがまちづくりに関わっている問題なので、この環境問題というのは非常に大きな問題であり、重要な問題だというのは認識をして議会でも取り組みをさせていただいているつもりではありますが、ただ、今日教えていただいたことだとか聞かせていただ

いたことというのは、まだまだ私自身も認識できてないこともたくさんありましたので、もう一度しっかりと勉強もしながら、皆さんのご意見を生かしていくようにやっていきたいと思います。

個別の問題で言いますと、宇治を含めて3市3町でごみの廃棄やとか処分をしている城南衛生管理組合というところがあります。そこで出ているのは、例えば燃えるごみで言うと、約40%ぐらいが紙のごみだと。それは再利用できる部分がたくさんあるんだということが言われています。これは個人であってもできることなんですけれども、事業者の皆さんでも、例えばお店に行ってトイレを利用して手を拭く、それを紙でやっている。こういうものが同じごみで処分されても燃やされていたら、それは燃やすごみになってしまうけれども、リサイクルして再利用したら本当にまた再利用できる資源になると。こういうようなことで、個人でもできるし、事業者の方とか、まちの皆さん全体でできることというのはたくさんあると思います。

太陽光も山を壊して、自然環境を壊して設置するのではなくて、例えば、個人のお宅もそうなんですけれども、今、スウェーデンの話も出ていましたけれども、北欧なんかは駐車場に屋根をつけて、カーポートですよね、屋根をつけて太陽光発電を設置する。それは事業者の方が働く人の駐車場で用意していたりとか、お買い物へ行くスーパーとかで、大型スーパーだったら大きい駐車場があるんでそういうものを利用するとか。なので、できることというのはたくさんありますし、これが駄目、これがいいということだけじゃなくて、やっぱりそういうことをいろいろ知っていく中で、本当に今日、たくさんご意見を出していただいたので、それをぜひ実現できるように、私たち議員ですので、宇治市の行政をちゃんとチェックをして、皆さんからいただいたご意見をそこに反映させていくという仕事があると思っていますので、それをぜひ頑張っていきたいなと思っています。

再利用のボールペンとかペンの話は、そこに文具屋さんがあるんですけれども、そこでも今ありますので、そういうのも始まってきているというのも私も知っていますので、たくさん皆さんの知識を、ぜひ、もっと聞かせていただく機会を持てればいいなと改めて思いました。本日はありがとうございました。

■進行

ありがとうございます。

次に、徳永委員、お願いします。

■徳永 未来 産業・人権環境常任委員会委員

本日はありがとうございました。貴重な意見、参考にさせていただきながら、今後の議会活動に努めていきたいなと思います。

私も、地産地消の問題というのはやっぱり大切やなと思ってお話のほう聞かせていただきました。なかなか宇治市産で、言われていたとおり給食がという問題もあるんですけども、できてないというところもあります。先ほどおっしゃられていた健康な体でいてもらうということとか、本当にそこが一番大事やなということもあります。また、宇治市の産直でやっていくということで、宇治市の農業も支えられるということで、また、それが環境の、二酸化炭素を減らして酸素を生み出すという循環にも変わっていくと思うので、しっかりその取り組みというのを、空気の循環ということも含めまして、しっかり取り組んでいきたいなと思います。

本当にフラワーロスの問題も、さっきの農業の件も、一緒やなと思います。隣の城陽市やったらお花の栽培とか本当にされている、カラーの花が多く栽培されているところなんですけれども、本当にそういうところでも小さいところからやっぱり始めることが大事かなとも思いますので、しっかり取り組みのほうを進めていきたいと思います。本日はありがとうございました。

■進行

藤田委員、お願いします。

■藤田 智晴 産業・人権環境常任委員会委員

本日は、お忙しい中、市民と議会のつどいにお集まりいただき、誠にありがとうございます。

私たち宇治市は、ゼロカーボン宣言を掲げて、そして持続可能な未来に向けた道を歩んでおりますが、本日のテーマである、どうやって宇治でゼロカーボンシティを達成するのかについて、推薦者の皆様、そして市民の皆様から様々なご意見をいただき、誠にありがとうございます。地域の連携や、民間の企業様、そして若い世代の情熱が1つになって、ゼロカーボンの達成に向けた強い推進力になっているのだと感じました。

ゼロカーボンを達成するには、市民の皆様一人一人のご協力であったりだとか、意識の

向上、こういったものが非常に大事になってくるなと思っております。先ほど様々なご意見を賜りましたが、再生エネルギー、ごみの分別とか、ごみの量を減らす、日々の生活の中でエネルギーを節約するなど、小さな一歩が大きな変化を生み出していくなと私自身は感じております。

また、現在は企業も、SDGs というのもございましたが、ESG経営、環境・社会・ガバナンス、こういったものも話題となっており、社会全体として環境への関心が高まっていったらと私自身は感じております。私たち議員も皆様と連携しながら具体的な施策を推進していきたいと思っております。本日のつどいでいただいたご意見やアイデア、こういったものは私たちがしっかり議会へ届けて、しっかり議論していきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

■進行

それでは、最後に角谷副委員長、お願いします。

■角谷 陽平 産業・人権環境常任委員会副委員長

ちょっと時間も過ぎておりますので、手短にさせていただきたいと思っております。

本当に素晴らしい現在のお取り組みのほうを皆様のほうに教えていただきまして、ありがとうございました。また様々なご意見も頂戴をいたしまして、我々議員としてしっかりとこれを市政のほうに、政策提言につなげていきたいと思っております。特に高校生、中学生の皆さんが、本当にふだんの行動、今の取り組みを教えていただいたのは、大変ありがたいと思っております。

地球温暖化の課題、ゼロカーボン達成していくのは理念じゃなくて、今はもう行動して、まさにその成果を、どれぐらい実現をしているのかというのを、市町村単位でもしっかりと取り組んで、その成果を出していかないといけないという時代になっております。これについては我々も所管の委員会として、しっかりと建設的な未来に向けた政策実現に取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続き皆様のご意見を聞かせていただきますよう、よろしく願いをいたします。またあわせて、我々と同じように行動をしていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。

本日は、本当に多岐にわたるご意見を賜りましてありがとうございました。私ども委員会といたしましても、本日いただきました意見を参考に今後の委員会活動に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

これにて意見交換は終了とさせていただきます。ありがとうございました。

4. 閉会挨拶

■徳永 未来 広報委員会副委員長

宇治市議会広報副委員長の徳永未来です。

本日、ご参加いただきました市民の皆様、お疲れさまでございました。ありがとうございます。本日の内容は、後日、ホームページなどでご報告のほうさせていただきます。よろしければ、お手元にありますアンケートのほうのご協力をよろしくお願いいたします。ご記入後のアンケート用紙は、受付にあります回収箱に入れていただくか、そのまま机の上に置いていただきますよう、よろしくお願いいたします。なお、鉛筆のほうはそのまま机の上に置いておいてください。

以上をもちまして、第8回市民と議会のつどい、産業・人権環境常任委員会の部を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。